

第4章 まとめ

発達障害者一人ひとりに応じた適切な就労支援を行うためには、アセスメントは欠かせません。

適切なアセスメントは、各種支援と一体となっておこなわれ、「何のために知りたいのか（目的）」が明確であり、目的に応じた「何を知りたいのか（対象）」と「どのように知るか（方法）」がしっかり考えられています。つまり、アセスメントの要点は、「目的の明確化→対象の検討→目的達成に適した方法の選択と実施」の過程をセットで考えることと言えます。

本マニュアルでは、以下のコンセプトを中心に、アセスメントの過程で大切にすべきことをできるだけお伝えするよう努めました。

見逃されやすい発達障害の障害特性を、できるだけ幅広く把握できるように

職業上の課題の背景について、情報処理過程（脳機能）や発達障害の特性を踏まえて推測し、整理できるように

職業上の課題について、個人と環境との相互作用に着目したアセスメントと支援方法の検討ができるように

本マニュアルが、アセスメントの目的、対象、実施方法に対する理解を深め、利用者の状況と問題の内容等に応じて、適切なアセスメント方法を選び、支援する際の参考になれば幸いです。

また、アセスメントの技術と支援の質を高めるためには、就労支援の問題に対して、どのようなアセスメントや支援を行い、その結果どうなったのか、という支援事例情報を例えば、同じ職場の支援者同士で共有することが重要です。本支援ツールは、そのような支援の質の向上を目的とした情報共有を行う際にも活用できるものとなっています。

就労支援に取り組む多くの方々に、本マニュアルをご活用いただくことで、アセスメントに基づいた発達障害者の就労支援が、より一層充実したものになることを期待しています。